

2012年3月期 第2四半期決算説明会

TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社

2011年11月17日

※本資料についてのご注意:

本資料に記載されているTDCソフトウェアエンジニアリング株式会社の将来の予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。

2012年3月期 第2四半期決算概況

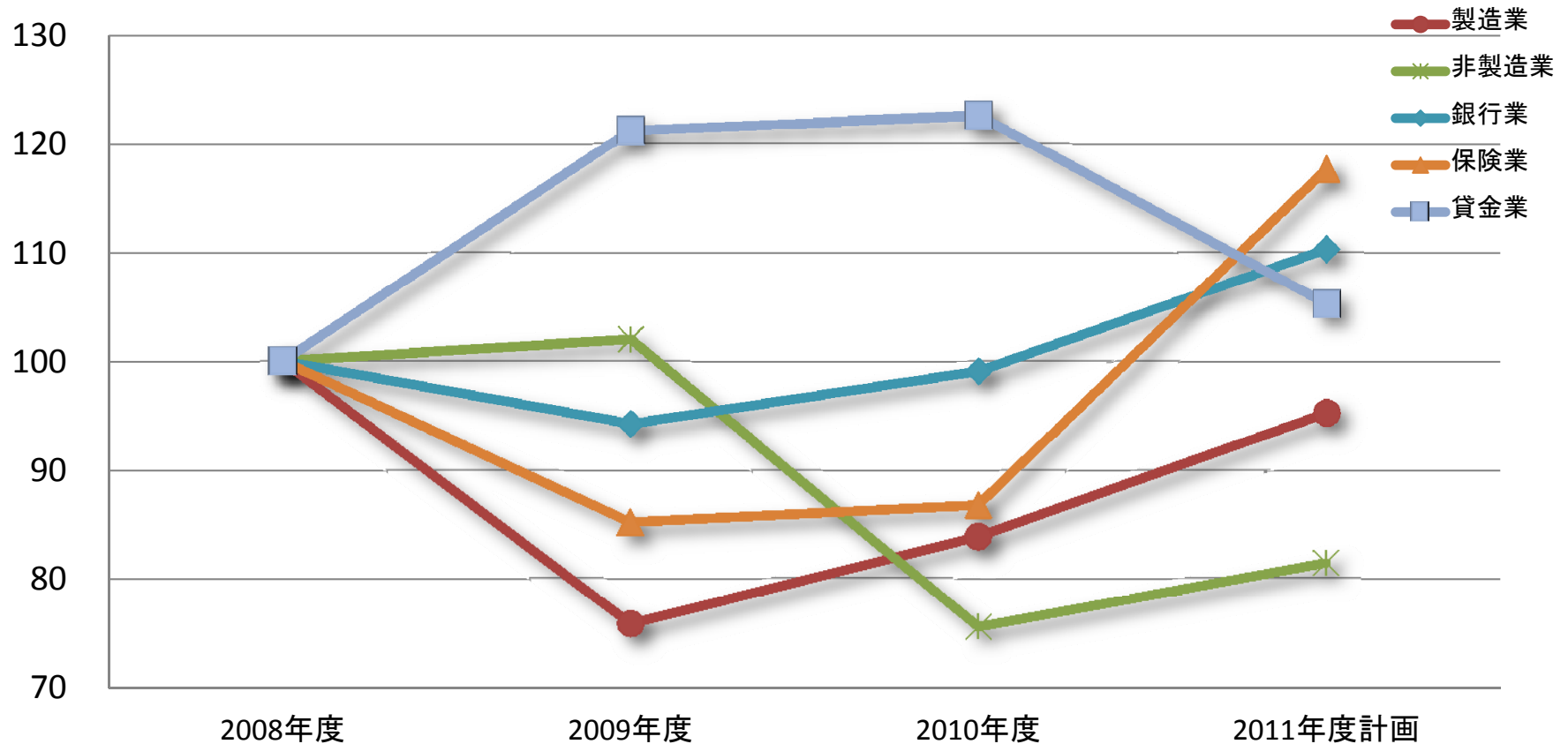
2012年3月期 通期業績見通し

代表取締役社長
谷上 俊二

情報サービス産業を取り巻く環境

- 幅広い業種において2011年度のソフトウェア投資が昨年度に比べて回復する方向
- 外部発注から内製化へのシフト、製品・サービスの価格低下、案件の小型化など業況は厳しい

ソフトウェア投資額(年度計画) (2008年度の値を基準値100として各年度を表示)



出所:日銀「短観(2011年9月調査)」より当社作成

(百万円)

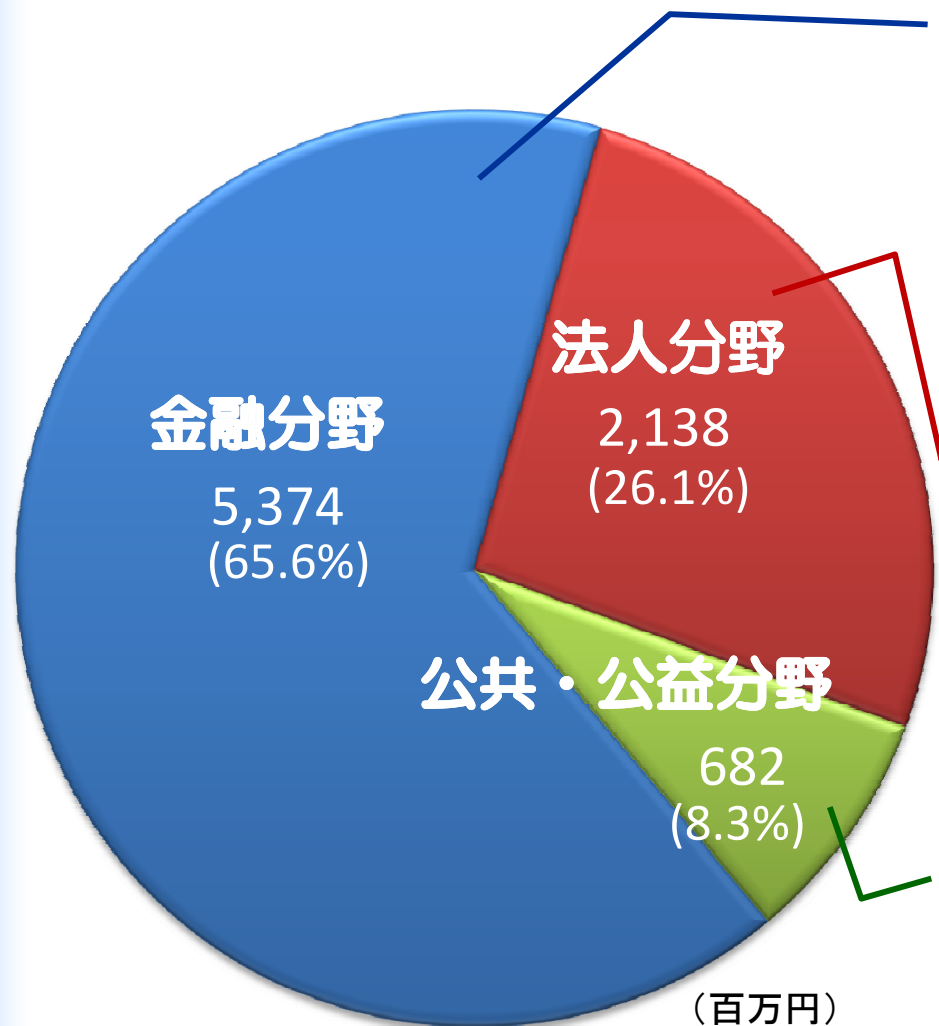
	2011年度 2Q累計	利益率	前期比	2010年度 2Q累計	利益率	期初予想	期初 予想比
売上高	8,194	-	△0.9%	8,264	-	8,000	+2.4%
売上総利益	1,096	13.4%	△18.0%	1,336	16.2%	-	-
営業利益	224	2.7%	△48.7%	437	5.3%	220	+2.2%
経常利益	238	2.9%	△53.2%	508	6.2%	220	+8.2%
当期純利益	120	1.5%	△31.4%	175	2.1%	120	+0.4%

【売上高】

金融分野は堅調に推移しているものの、法人分野が低調に推移し、前年同期に比べ減少

【利益】

厳しい受注環境の影響から稼働率が改善していないことや、一部開発案件において不採算案件が発生したことにより、売上総利益が前年同期に比べ減少



金融分野

- ◆新制度の創設に伴う銀行関連向けのシステム開発が増加
- ◆保険関連向けの新規システム開発案件が低調

➡ 売上高 5,374百万円(前期比+4.3%)

法人分野

- ◆電気機器関連向けのシステム開発案件が堅調
- ◆震災の影響により新規システム開発案件が低調
- ◆前期に運輸関連向け、通信関連向けの大型システム開発が終了

➡ 売上高 2,138百万円(前期比▲8.5%)

公共・公益分野

- ◆官公庁・自治体関連向けは前年同期並みに推移
- ◆エネルギー関連向けのシステム開発案件が減少

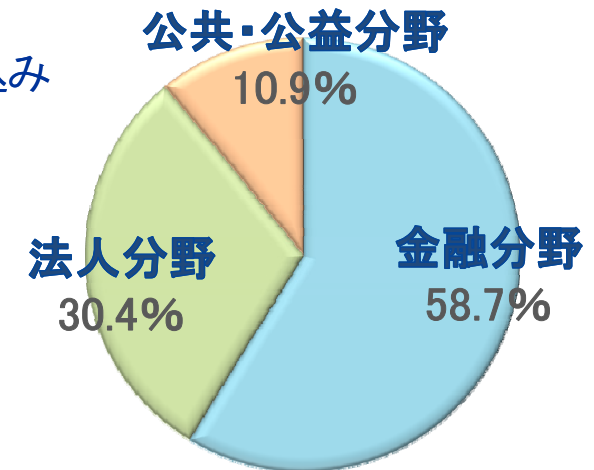
➡ 売上高は682百万円(前期比▲11.9%)

システム基盤・ネットワーク関連

- ◆受注活動強化により金融関連のインフラ構築やオープン化ニーズの取り込み



売上高は2,390百万円
(前年同期比+16.1%)となった

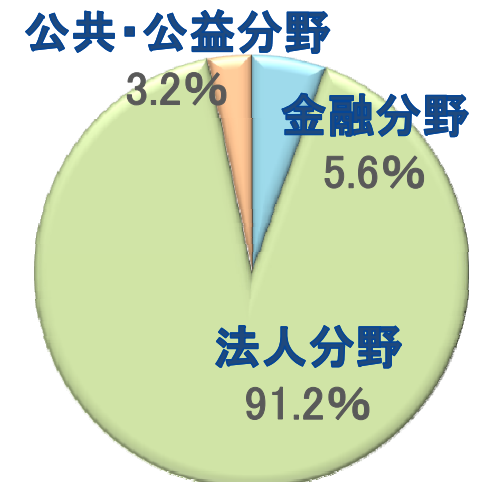


クラウド・モバイル関連

- ◆Trustproを活用し、ユーザー数3,000の大規模プライベートクラウドを納入
- ◆震災の影響でクラウド需要は拡大しているものの、
今期は導入支援案件が低調に推移



売上高は210百万円
(前年同期比▲42.0%)となった



<クラウドソリューションへの取り組み>

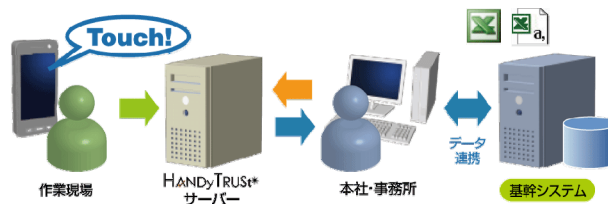
- ▶ 第3回クラウドランキング(日経コンピュータ2011年9月29日号)で『HANDyTRUST』及び『セールスフォース導入支援サービス』が**ベストサービスに選定**、『HANDyTRUST』は第1回から3回連続で選定



- ▶ スマートフォンへの対応

- ・スマートフォン市場の急速な拡大を睨み『HANDyTRUST **Android対応版**』をリリース
スマートフォンを活用したビジネスソリューションの提供を強化

HANDyTRUST*



- ▶ ITproEXPO2011(主催:日経BP社)に出展、クラウドへの取り組みをアピール



<新市場の獲得への取組み>

2011年1月、中国天津駐在員事務所を開設、中国におけるビジネス展開を開始



中国における日本向けオフショア開発、システム構築(SI)サービス、
ソリューションサービスを推進するため、中国天津市に新会社を設立

◆所在地: 中国天津濱海高新技术産業開発区華苑産業区 (環外) 海泰(予定)
(天津ソフトウェアパーク第3期地区)

◆設立年月: 平成24年4月(予定)

◆主な事業内容:

- ・日本向けオフショア開発
- ・中国企業向けシステム構築(SI)サービスの提供
- ・モバイルを活用したクラウドサービス等、
中国企業向けソリューションサービスの提供



現地法人の入居予定地

通期の見通し

(百万円)

	2011年度 通期		増減率	2010年度 通期	2009年度 通期
		増減額			
売上高	17,000	△220	△1.3%	17,220	16,401
営業利益	700	△81	△10.4%	781	596
経常利益	700	△170	△19.6%	870	609
当期純利益	370	△6	△1.8%	376	312
EPS	61.60円	△0.82円	△1.3%	62.42円	51.80円
1株当り配当金 (年間)	25円	-	-	25円	25円

* 期初計画からの変更はありません

<2011年度上期の状況>

震災による急速な悪化

サプライチェーンの復旧

企業・家計のマインド改善

復旧に向けた公的部門の取組み

世界各地における
自然災害の発生

依然不透明な
欧州問題の先行き

円高の進行による
輸出環境のリスク高まり

引き続き厳しい事業環境が継続

利益の確保

- ①不採算案件の抑制
- ②プロジェクト利益率の改善
- ③稼働率の向上

受注の確保・拡大

営業、開発部門全体で、どのお客様に、何を武器に攻めるか、
主要顧客別の戦略を徹底する

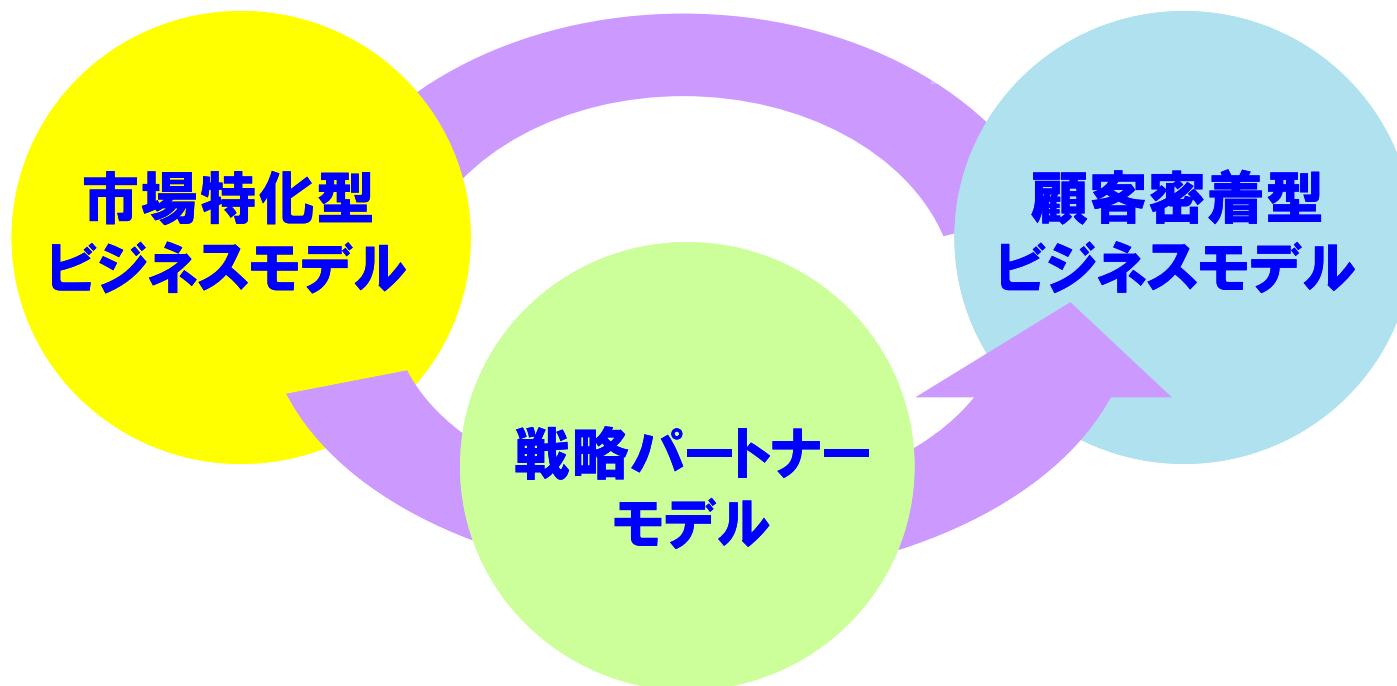
Trustproを中核にしたクラウドソリューションの推進

Trustpro を当社の中核に位置付け、機能向上を図り、
S I 及び販売に注力し、全社がそれぞれの得意分野で活用する

経営ビジョン

情報通信技術で社会とお客様の繁栄に寄与し、
お客様から最も信頼されるパートナー

基本戦略



受注の 確保・拡大

- 営業、開発、管理の三位一体で
全社を挙げた総合受注力強化策を推進

価格競争力 の強化

- オフショア、ニアショアによる開発分業体制の構築

新事業・新市場 の獲得

- 独自性の追求等によるサービスの多様化・高度化
- グローバル展開を含めた新市場の獲得

効率化による 収益確保

- きめ細かなPJ監視、作業管理等による効率化、稼働率の向上
- 中期的な効率化を目指した管理業務のシステム化

企業基盤の強化

- プロジェクトマネージャー、SEの早期育成
- グループ会社との製造ビジネスの連携強化、管理効率化

2012年3月期 第2四半期決算内容

取締役常務執行役員

岩田 伸

損益計算書

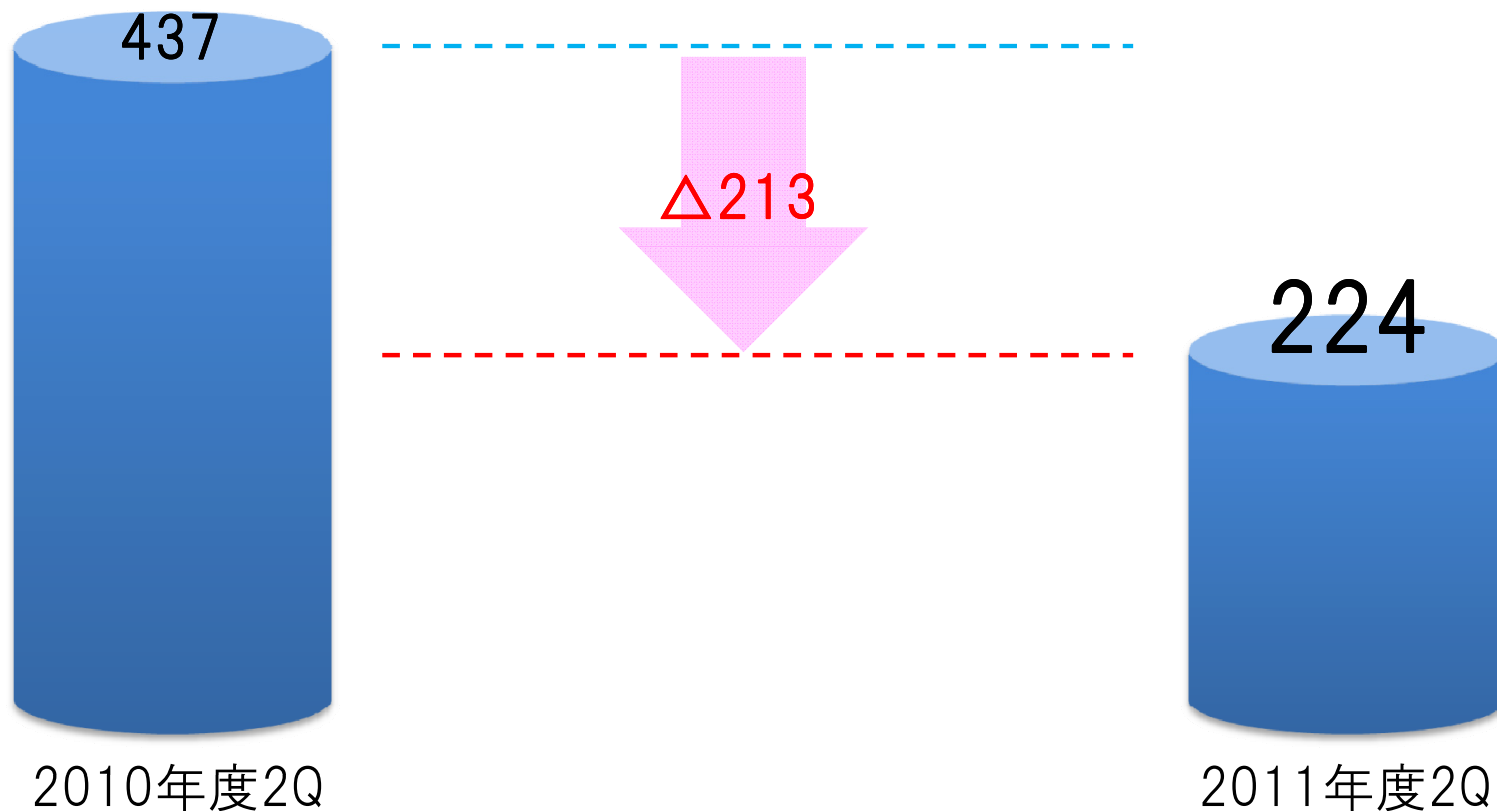
(百万円)

	2011年度 2Q累計	2010年度 2Q累計	増減額	増減率
売上高	8,194	8,264	△70	△0.9%
労務費	3,561	3,610	△49	△1.4%
外注費	3,179	3,322	△142	△4.3%
その他	389	409	△19	△4.8%
仕掛増減高	33	414	△381	△91.9%
売上原価	7,097	6,927	169	2.5%
売上総利益	1,096	1,336	△240	△18.0%
販売費及び一般管理費	871	898	△27	△3.0%
営業利益	224	437	△213	△48.7%
営業外収支	13	70	△57	△81.2%
経常利益	238	508	△270	△53.2%
特別損益	△9	△129	119	—
税引前当期利益	228	379	△151	△39.8%
四半期純利益	120	175	△55	△31.4%

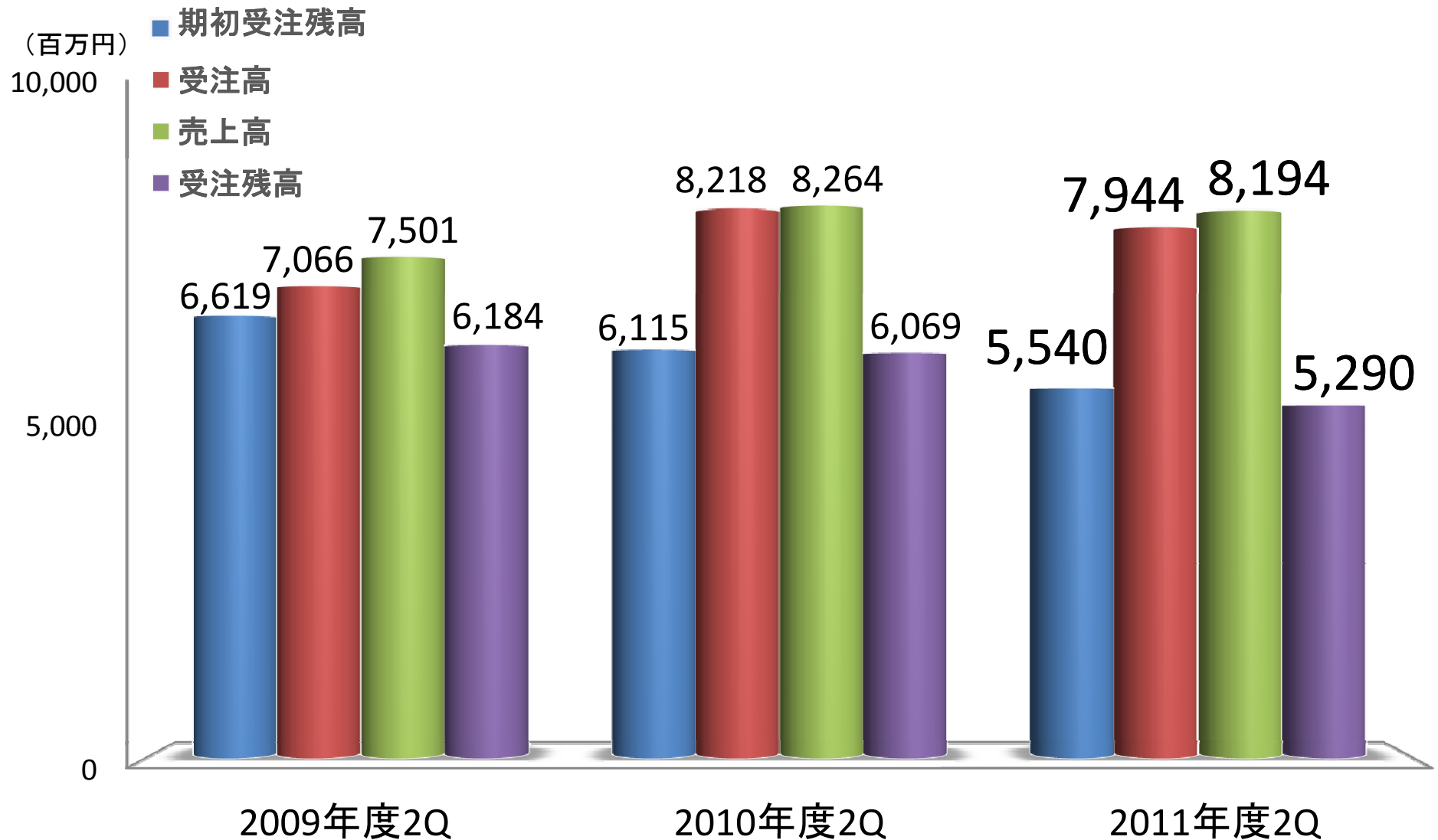
(百万円)

営業利益減少要因

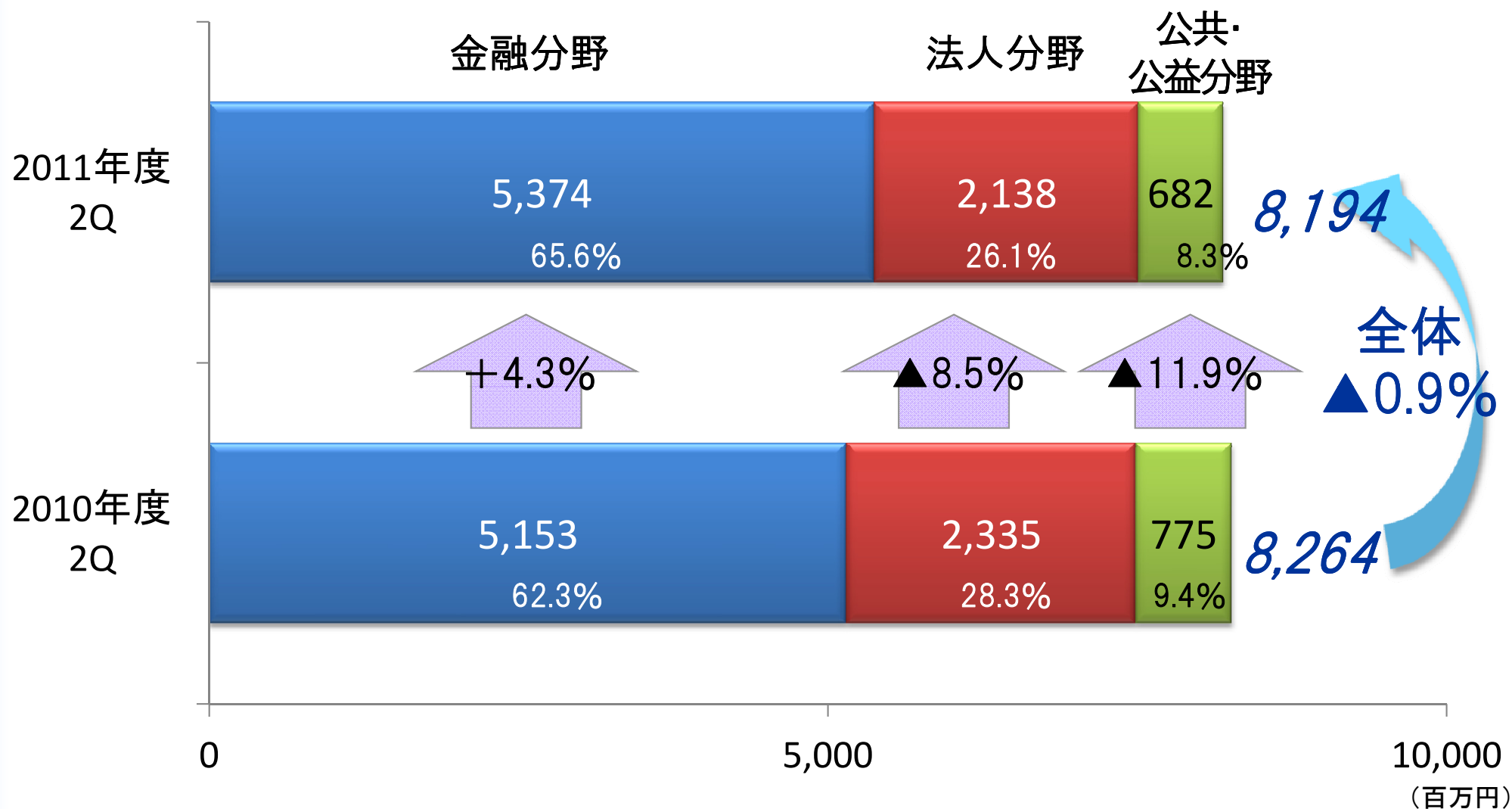
- ・不採算案件の発生
- ・稼働率改善の遅れ
- ・海外ビジネス推進等の戦略的投資



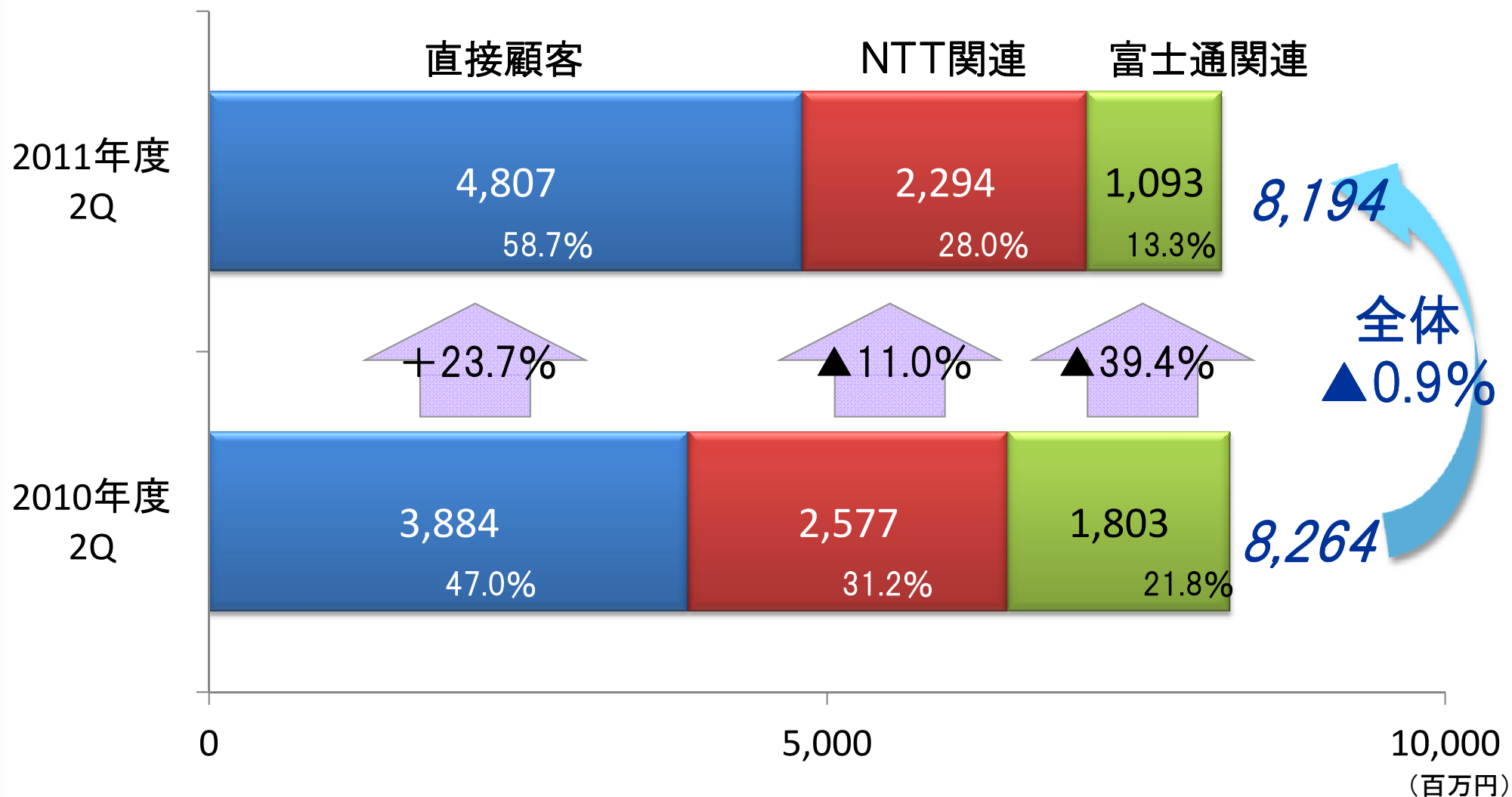
受注高・売上高の状況



事業分野別売上高の状況



取引先別売上高の状況



貸借対照表

(百万円)

	2011年度2Q末	2010年度2Q末	増減額
資産合計	8,542	8,671	△128
流動資産	7,198	7,392	△194
現金及び預金	2,172	2,819	△647
売掛金	3,118	2,921	196
たな卸資産	654	747	△93
固定資産	1,343	1,278	65
有形固定資産	61	73	△11
無形固定資産	49	14	35
投資その他	1,232	1,190	42
負債合計	2,804	3,053	△248
流動負債	2,750	2,961	△210
買掛金	593	603	△10
短期借入金	676	701	△25
固定負債	54	92	△38
純資産合計	5,737	5,617	120
負債純資産合計	8,542	8,671	△128
自己資本比率	67.2%	64.8%	
1株当たり純資産	959.04円	930.40円	